第７回栽培・飼育教材開発コンクールの審査結果と講評

審査委員長　井上博茂

幼児教育・保育施設，小学校，中学校，高等学校ならびに特別支援学校の教員を対象に，昨年度，第７回栽培・飼育教材開発コンクールを開催いたしました。以下，審査結果と講評についてご報告いたします。

本コンクールの内容として，以下の２部門を設定し募集を行いました。
（応募期間 2025 年 11 月 1 日～2026 年 1 月 13 日）

①人格形成・知識理解部門
・・・子どもの人格形成・発達や，基礎的知識の習得に関する教育
（主に幼児教育・保育施設，小学校，中学校，特別支援学校）

②農業技術・農業人材育成部門
・・・農業に関わる専門的技術・人材の育成に関する教育
（主に中学校，高等学校）

今回は，２部門合計で５件の応募をいただきました。まずは，応募いただきました各先生方をはじめ，ご協力いただきました学校関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

①	人格形成・知識理解部門	応募数：4 件
②	農業技術・農業人材育成部門	応募数：1 件

審査は，委員長：井上博茂（学会副会長・京都大学国際高等教育院），審査委員：小泉匡弘（北海道教育大学旭川校），箕作和彦（奈良教育大学教育学部），築瀬雅則（大阪公立大学農学部），鎌田英一郎（長崎大学教育学部）の５名で実施しました。各審査員による事前評価，オンラインによる審査会を行い，最優秀賞２件，優秀賞２件を選出しました（下表）。惜しくも受賞には至りませんでしたが，興味深い教材開発における取り組みをご紹介いただきました方には奨励賞をお贈りすることとしました。ご応募いただきました皆様の教材研究に対する熱意，ご尽力に対し，心より敬意を表します。

各賞の受賞者には学会から表彰状ならびに記念品を贈呈いたしました。また，審査結果ならびに各審査委員からの評価・アドバイスをまとめた講評をお送りいたしました。今後の教材開発研究の参考にしていただければ幸いです。

第７回栽培・飼育教材開発コンクール受賞教材（作品）

① 人格形成・知識理解部門

最優秀賞　坂之上尚也（鹿児島県瀬戸内町立油井小学校）
地域素材のドラゴンフルーツを活用した個別探究活動

優秀賞　大塚俊太（埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園）
「もったいない」から始まる学び規格外野菜を活用した食品ロス×食品科学×社会参画教材

優秀賞　川口友和（宮城県加美農業高等学校）
MILAI LABO

② 農業技術・農業人材育成部門

最優秀賞　毛戸政知（京都府福知山市立日新中学校）
藍染～３カ月で収穫できるタデアイの栽培（生物にも化学にも）～

① 人格形成・知識理解部門における最優秀賞には，鹿児島県瀬戸内町立油井小学校の坂之上尚也先生による「地域素材のドラゴンフルーツを活用した個別探究活動」を選出しました。本教材では，地元特産であるドラゴンフルーツの栽培活動を通して，土壌づくりから収穫・販売に至るまでの一連の過程を体験的に学ぶことができるという点ならびに，本教材を通して，地元高校生や地域の方々との交流を通して社会に参画する経験が，生徒の人格形成にも大きく寄与するものであると期待できる点を高く評価しました。また，埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園の大塚俊太先生による「「もったいない」から始まる学び規格外野菜を活用した食品ロス×食品科学×社会参画教材」および宮城県加美農業高等学校の川口友和先生による「MILAI LABO」を優秀賞として選出しました。これらの教材では，いずれも学習への主体的な関わりを引き出しやすく，高い学習効果が期待できる点を評価しました。

② 農業技術・農業人材育成部門における最優秀賞には，京都府福知山市立日新中学校の毛戸政知先生による「藍染～３カ月で収穫できるタデアイの栽培(生物にも化学にも)～」を選出しました。本教材では，タデアイを栽培し，収穫，加工までのものづくりを通じて，中学校の理科教育を充実させようとしている点を高く評価しました。また，教育現場の実情に応じた教材の選定，教科の特色とあわせた学習活動の工夫が図られている点についても高く評価しました。

今回応募いただいた開発教材は，地域における農産物や地域で受け継がれてきた技術を題材としたもの，私たちの身近で起きている規格外野菜による食品ロスを題材としたもの，私たちの日常生活の中で用いられている技術を題材としたもの，動物の飼育を題材とした

ものなど，様々な着眼点から得られた発想をもとに開発されていて，開発された先生方の苦労や熱意が感じられました。また，児童・生徒への教育効果についても様々な工夫がなされ，農業教育の重要性ならびに可能性について改めて考える機会を得たと認識しております。応募いただいた開発教材について，農業教育における実践事例研究として，ぜひ，本学会の講演会において，ご紹介いただきたいと思います。一方で，応募者の増加には至らず，本コンクールの周知，認知度を高める努力が必要であると痛感しております。学会員のみなさまにおかれましても，周辺ですばらしい教材開発をなさっておられる学校，教員がおられましたら，本コンクールについてぜひご紹介ください。

次回のコンクールにおいても，さらに多くのご応募を期待しております。